



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047-767-5030 植田 進 ☎047-487-9754

伊原 忠 ☎047-488-7207 飯川英樹 ☎080-1239-8132

ホームページへ▶

市議団ホームページ <https://jcp-yachiyo.jp/>

共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp



第544号

2022年3月28日

発行

日本共産党

八千代市議会議員団

八千代市大和田新田

312-5

18歳までの子ども医療費助成が一步前進へ

子育て中のみなさんからの強い願いに応えるべく、日本共産党は「子どもの医療費助成を高校卒業まで拡充」するよう市議会で求めてきました。3月議会で市長は、他会派の質問に対して、「入院から始める」との答弁がありました。

それに先立ち、日本共産党を含む全会派の代表によって提出された発議案、「18歳までの子どもの医療費助成制度の拡充に関する決議について」が全会一致にて可決されたことが後押しとなり、市民の要望が一步前進しました。

基金を使って入院だけでなく通院、調剤費まで拡充を

日本共産党は、2014年8月に中学生まで医療費助成が拡充されてから、一般質問や発議案、さらに毎年予算の組替動議で高校卒業までの拡充を求めてきました。

千葉県の助成は、小学3年生までとされていますが、千葉県内の自治体では、市独自の上乗せで小学校卒業や中学校卒業、さらには高校卒業と拡充されています。その際、日本共産党は、18歳までという言葉を使わず、高校卒業まで拡充すべきと他の自治体と統一してきました。

八千代市が高校卒業まで入院、通院、調剤費分まで拡充するには、1億2千万円の予算が必要とされています。服部市長が就任してから5年間で、財政調整基金を2倍以上にし、約40億円となっています。この基金を利用すれば、入院だけでなく通院も調剤費も賄うことができます。



格差と貧困が広がるなか、安心して子育てができる八千代市の実現のために、日本共産党は、子供医療費の拡充のために全力を尽くします。

おいしく作り手が見える自校給食校がなくなる

八千代市は、学校給食センター東八千代調理場が9月に完成するため、大和田、萱田、新木戸小学校の自校給食校を10月から廃止し、まだ使える給食室を配膳室に改修・解体する計画を進めようとしています。教育の観点からもまだ使えるものを壊す行為はゆるせません。

保護者からも「自校給食校ならではの取り組みがなくなるのはさみしい」との声がありました。作り手の見える温かい給食、自校給食校だからこそ地産地消による地域の農家と給食を作る調理員さんとのつながりができます。

日本共産党は、自校給食室が災害時の運用も可能な点からも廃止を撤回するよう求めます。